



弁天町駅、その名の由来

弁天町駅は、昭和36(1961)年、国鉄(現JR)大阪環状線の全通とともに開業しました。

駅一帯の地域名は、江戸時代の元禄年間に開墾された新田に由来する「市岡」



建設中の大阪環状線と弁天町駅、手前は国道43号の橋脚(昭和35年頃)

でしたが、開業当時、国鉄には既に市岡駅(岡山県新見市)が存在したため、駅の近く、^{なみよけ}波除小学校付近の町名「弁天町」から採られました。

その弁天町という町名は、弁才天(弁財天)に由来します。弁才天は、七福神の一員として知られていますが、元来、古代インドの河の神であることから、水に縁の深い神として信仰されていました。

市岡新田は、その完成後も再三の水害に悩まされ、堤防が決壊し潮水で田畑は荒廃しました。これを鎮めるため、新田の会所(事務所)に、水に縁のある弁才天が祀られ、信仰を集めていたと伝えられます。



市岡新田会所跡

この弁才天にちなんで、昭和2(1927)年に「弁天町」という町名が設けられました。現在は、大阪環状線西側の町名「弁天」として受け継がれています。なお、新田会所に祀られていた弁才天は、その後、消息不明になっています。会所自体も廃止され、現在、波除公園内の跡地に記念碑が建てられています。